

これからの医療を考える

地域医療連携講演会

三月十七日、島根大学医学部付属病院と奥出雲病院との共催でカルチャープラザ仁多において地域医療連携講演会が開催されました。

講演会では、これまで長年にわたり、大学病院と奥出雲病院との医療体制に格段のご

尽力を頂いている地域医療連携センター長 川内秀之教授（耳鼻咽喉科教授）より、大学・病院・地域住民が一体となった医療体制の必要性が説

明されました。

次に医学部の医療ソーシャルワーカーから地域患者さんへの対応について発表があり、佐藤秀俊医師から心臓疾患の高度先進技術が紹介されました。

これを受け、奥出雲病院のソーシャルワーカーと医師、診療所の医師からは、入退院を含めたケア、地元の医療体制の現状、大学病院への希望などが述べられました。

奥出雲病院と町内の診療所（かかりつけ医）との連携を深め、病院とより高度な医療が受けられる大学病院との連携を確立し、患者さんが希望する質の高い医療をいかに提供していくかを教示いただきました。

本町では奥出雲病院をはじめ多くの医療・福祉施設を建設し、整備基準を大幅に上回る整備を進



▲ 多くの方が熱心に地域医療を考えました

め、また各種の健診、保健活動も積極的に実施し、地域医療の充実に努めています。

当日参加した二百五十人は、患者さん、家族が望む町・大学を含めた広域的な医療連携の実現について熱心に聴講しました。

講演会の終わりに、川内教授から、大学病院と奥出雲病院が、今後一層の連携を図って参りたいとの話があり有意義な講演会となりました。

尾原ダム建設予定地で

紅葉の道づくり植樹祭

尾原ダム建設事業に伴う町道「八代・三沢線」付け替え道路沿いでは、色鮮やかな景観づくりを進めようと、地元の方、移転者、下流域の住民などの手により植樹が行われています。

今年はこの五年間の事業の集大成として三月十八日に行われ、住民の方、国・県・町の担当者、NPO法人斐伊川くらぶ、ボランティアなど約六十人が参加しました。

肌寒い中でしたが、皆さんの協力により「いろは紅葉」、「ソメイヨシノ」、「トウカエデ」等九十本が植えられました。

参加者からは「無事にダムが完成し、ここを通る人が自分たちの植えた木をみて心を



▲ 植栽が終わり参加者全員で記念写真

将来この道路は色鮮やかな木々で彩られ、多くの人の目を楽しませてくれることでしょう。



▶ 講演会の様子